

○善意と悪意

(十一月十日)

一弘

法律用語では、善意とは必ずしも善良な

心を以て接し、~~此~~訳では無くして、<sup>予</sup>好め悪意を

~~持~~持つ事が無い場合を云うと聞いている。

我々を始めとして、此の地球上の自然界の

~~動物~~動物は、独立して生活を営む限りは、必ずしも他

の己れより小さい生きものを捕捉して喰べる

ことによつて、己れの個体の~~善~~善源として

いるのである。

私達から見ると、猫が鼠を捕えて喰うのも、



ライオンや虎が縞馬や鹿に飛びびかかつて噛み殺  
 して喰うのも、蛇と蛇とが頭から喰いついて  
 相手を生きかまきで丸呑みにしてしまふのや、  
 頗る残酷に見えるが、彼等にとつては、こゝ善  
 意に扱けるものであつて、生きるための葉があ  
 る。動物である限り、魚も爬虫類も、鳥も犬の  
 仲間も昆虫に於ても同じである。  
 植物の中でさへも昆虫を巧みに捕えて養う養  
 としてゐるものがある。植物と云へば、元来か  
 此の地球上の自然界に、今から三十五億年以



前に生命の源が誕生し、ソモソモが緑の植物  
 であつて、ソレが繁殖して光合成の作用によつ  
 て、酸素が水中や空気中に溶けこんで存在す  
 るようになつてから、我々動物即ち酸素を吸つ  
 て生きるものが出現したものであるとすれば、  
 之れ我々動物にとつては生母の親とも云うべき  
 ものである。

他の動物を喰うこと無くして

その上に動物の中で一番喰われる立場に在

るものは、緑の植物を喰べて生きてゐるのである。

緑の植物が太陽の光を吸収して光合成によ



つて、生きる作業をしているとすれば、此の地球上の生物全体は、太陽のエネルギーをとつて生きていくことになるのである。

その有難い植物を、我々の<sup>近代の</sup>祖先は、お精進と称して殺生をしない食物として、平然と採つて喰つて居つたのである。だが、アメリカに於て、ウツ見器の研究者の、ボックスと云う人か、或る時、その<sup>電極</sup>を室内に在つた観葉植物に接続して、実験した結果、植物も己の生命が脅やかされる場合のみでは無く、同来夫



の他の個体の死にも反応する上に、近くで卵や  
 小動物が殺される場合にも、その電極は一つ一つ  
 に反応し、たとえそれは植物と雖も我々動物とは  
 異なる仕組みではあつても、その生死には敏感に  
 感じるものであることが、既に世界のいろいろな園に  
 於ても研究されてゐる力である。

ここでは我々人間の場合には、他の動物達の善  
 意の殺戮であつてさへも、目を背ける程に知  
 性が進んでしまつてゐる以上は、同じく他の

生物を、栄養源として喰うにしても、そこには相



当の覚悟を持つてかからなくてはならないことには  
 なるのであつて、でき得る限り合理的に、自から  
 納得の行く殺生をした<sup>上</sup>に、それを栄養源とし  
 て、已れが生き、そして、<sup>己</sup>己れが生きるための何  
 事かを、此の自然界に~~お~~貢献しなければならぬ  
 そう云う自信があつてこそ、前項を述べた  
 如の自在心を持ち、宇宙心を持つて、そして、  
 自からの個体をリラックスして、自からの心  
 をもリラックスし、そして、前記の如き自信に  
 充ち~~た~~落ちつきを得た心を、即ち宇宙心と云  
 うべきものであると云えるのである。